

なぜVimを選んだのか(Vimとの出会い)

1. vimとの出会い

- 「テキストエディタ」というものを知るようになったきっかけ
 - IT業界(サーバ・インフラ担当)に就業した日ぐらい
 - 下記を行うツールとして存在
 - 日報などを書く
 - コマンドの作成
 - 設定ファイルの比較
 - 置換

- 常駐先の自端末(Windows)にsakuraエディタが入っていた
 - 下記の機能があることに感動
 - 矩形選択
 - 行コピー
 - 検索と置換(ハイライト、正規表現)
 - ファイル内検索(grep)
 - ソート
 - マージ
 - 重複排除

- vimとの出会い

- LinuxのOS設定作業をする際に、ファイル(/etc/hostsなど)の編集をするために必要だった

- Linuxにデフォルトで入っているエディタ
 - 神であるExcelの手順書に「1-3. viで /etc/hostsを変更する」と記載されていた
 - 実際にやってみると...
 - 「文字入力できない」
 - 「ctrl + {c,v} でコピペできなくない？」
 - 「!付けても保存できねえ...」という感じに苦戦

- 補足

- vi はvimにエイリアスされているので、実際viは使ったことなく、vimを使っている

```
$ which vi  
alias vi='vim'  
        /usr/bin/vim
```

- 「常駐先の自端末(Windows)でもsakuraではなく、vimを使っておけばよいのでは？」と思い、kaoriyaさんのvimを使うようになった
 - <https://github.com/koron/vim-kaoriya/releases/tag/v8.1.0005-20180520>

- 強制(矯正) vim縛り
 - 可能なことを全て、vim 1つ(できれば1画面)で行うという縛りにより、最終的な効率化を図る

- 茨の道...

- 「sakuraエディタなら初めから使える機能すら設定しないと使えない...」
- 「いらいらする。効率良くなさすぎて帰りたい」
- ホームポジションを大切にするエディタなので、タイピングポジションの改善が必要(もともと法学部でPCすら家になかった

- なんとか使えるようになってきた
 - 慣れてくると、sakuraエディタよりも出来ることが沢山ある！
 - フォルダ・ファイル操作や、コマンド実行結果の取得も出来る
 - 結果的に速いかも
 - 拡張が沢山ある

-> 「もっとVimを使おう」 と思った

2. 他のテキストエディタとの比較

stack overflowによる10万人の調査結果@2018

-> 全体(Web開発者、モバイル開発者、システム管理者)では、Visual Studio Code、システム管理者ではVim となった

エディタ戦争

->Vi vs Emacsの過去。ユーモアの塊。

"Emacs 側は vi の2つのモードを "beep repeatedly"（ビービー鳴らすモード）と "break everything"（何もかも台無しにするモード）と揶揄した。"

-> 繰り返し処理の得意なviで、コマンドを誤った際に鳴る連続したビープ音への揶揄

vi側は "EMACS Makes Any Computer Slow" (EMACSはどんなコンピュータも低速にする。再帰的頭字語) と揶揄

Emacsの使う予約メモリ8MBは、当時のサーバーの持つスペックに対しては非常に大きいことへの揶揄

" 「(Emacsは)偉大なオペレーティングシステムだが、きちんとしたエディタだけが欠けている」 "

まとめ

- メリット
 - Linux,macには標準搭載、Windowsもバイナリで動く
 - 習得すると正確に速くテキスト編集できる
 - システム管理者の間では一番使われているエディタ
 - 歴史も面白い
 - ファイルの作成削除、複数ファイルの編集に長けている
 - ターミナル(shell)と親和性高い
- デメリット
 - Emacsや他エディタと簡単には機能比較できない
 - 習得するのに時間がかかる(これはEmacsも同じ)